

# 令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人 食糧学院  
東京栄養食糧専門学校

学校法人食糧学院 東京栄養食糧専門学校  
学校関係者評価報告書

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和2年度自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価」を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

- 1.開催日時 令和3年6月23日(水) 17:00~19:00
- 2.開催場所 本館二階 会議室
- 3.委員 (1) 学校関係者評価委員
- |        |                       |                |
|--------|-----------------------|----------------|
| 寺嶋 利行  | 一般社団法人 F L A ネットワーク協会 | 事務局長           |
| 渡邊 智子  | 淑徳大学                  | 教授             |
| 大木 いづみ | 慶応義塾大学病院              | 食養管理課 課長       |
| 角道 俊哉  | 叡明高等学校                | 校長             |
| 山辺 重雄  | 東京栄養食糧専門学校            | 校長             |
| 柴田 邦子  | 東京栄養食糧専門学校            | 教務部 部長         |
| 船木 潤   | 東京栄養食糧専門学校            | 総務部 部長         |
| 鈴木 健一  | 東京栄養食糧専門学校            | 教務部 就職進路支援課 課長 |
- (2) 事務局
- |       |            |                          |
|-------|------------|--------------------------|
| 河井 義幸 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 教務学生課 課長<br>職業実践教育担当 |
| 國井 規代 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 管理栄養士科 科長            |

4.会議の概要

- (1) 理事長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 議長選出
- (4) 「令和2年度自己点検・自己評価」報告書の説明と評価

令和2年度 学校関係者評価結果

(学校関係者評価委員会実施日：令和3年6月23日)

学校法人 食糧学院 東京栄養食糧専門学校

大項目	学校関係者評価
<p>基準1 教育理念 目的・育成人材像</p>	<p>本校は「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士が持つべき基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養」を周知しているところである。</p> <p>栄養士科は5コース（健康増進栄養系、医療・福祉系、こども・食育系、健康・美容系、食品開発系）管理栄養士科は2コース（医療・福祉栄養系、健康・食育栄養系）のコース制を導入し、将来を見据えた専門性を磨くことができる。また、実学教育を実施すべく、カリキュラムに実習・実験・演習を多く取り入れ、アクティブラーニングを推進している。中長期的構想の中で、栄養士科、管理栄養士科の卒業生が学んでも遜色のない新学科「健康スイーツ研究科」の設立をした。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき、理事会や定例会議（学院センター管理職会議、本校運営会議・教職員会議等）において学校運営の進捗状況、課題（問題点）等を提起、或いは報告し、教職員全体が把握できるようにしている。教職員間のコミュニケーション手段の一助としてインフラの整備が進み、学校運営に対する情報の共有化が容易となる中、学院本部や広報室、キャリア支援室との連携をより密にして、更なる情報の共有化・事務処理の効率化を図っている。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>専門実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、これからの高齢化社会における栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。</p> <p>また社会人となったときに、コミュニケーション能力を活かせるよう、授業での少人数制グループワークで「全員参加型の教育」を実施、より具体的な栄養士・管理栄養士像が思い描けるよう、実社会での企業研修である校外実習・臨地実習に重点を置いている。</p>
<p>基準4 教育成果</p>	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待している。授業評価（学生満足度）アンケートを実施し、その結果を教職員にフィードバックしている。管理栄養士科の国家試験対策の充実は、高い合格率に表れている。就職に関しては、担任、就職進路指導課および全教職員が一体となり、学生の夢を叶えるべく、支援体制を強化している。学生のニーズに合った就職先の開拓や、学生個人の適正を把握し、その適正に沿った就職先の斡旋により、多くの学生がその希望により栄養士・管理栄養士の資格を活かせる職域での就職を実現している。キャリアデザインの一環として、就職活動の流れや将来像、履歴書の作成、セルフプロモーション、面接指導や就職活動のマナーなどの指導している。</p> <p>基準4について以下の【提案】があった。</p> <p>実際に「卒業後社会で活躍できるような教育」であった評価するために、卒業生を対象にした調査を実施して、評価に役立てるとよいと思います。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全を勉学に励むことが出来るよう支援体制ならびに施設環境を整えている。志半ばでの進路変更や経済的な理由で中途退学する学生がいるため、経済的支援としては、各種奨学金制度をはじめ本校独自の制度として「特待生制度」「教育後援会奨学金制度」「留学生校納金減免制度」を設けている。</p> <p>学生相談については、カウンセラー室を設けており、専任カウンセラーによるカウンセリングを必要とする学生への相談対応を行うなどきめ細やかな学生対応を実施している。</p> <p>基準5について以下の【質問】があった。</p> <p>①コロナ禍での環境変化に伴い、精神的不調をきたす方は増加傾向と見えます。自己申告によるカウンセリング受診以外に早期支援できる取り組みがあるとよいと思います。健康診断の際に、精神的不調をキャッチできるアンケート調査を取り入れるなど。</p> <p>②十分に様々なことが実施されています。しいて言えば担任の先生方の学生対応の質を高めるようなFDを行ってはどうでしょうか。栄養士科2クラスを1人で担当するのは大変ではないかと思っています。</p> <p>【回答】</p> <p>①精神的不調該当者には入学時に自己申告表を提出させています。しかし、サポート校・通信制・高卒認定の学生については申告していないことが多く、サインを見逃しがち（特に栄養士科に多い）なので、担任、授業担当、保護者の横断的なサポートが必要である。</p> <p>②今年度の成果を踏まえ、次年度は検討致します。</p>

<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を授け学生の思い・夢・希望を叶えていきたい。校舎の老朽化は否めないが、各校舎の耐震化施工は全て実施済みであり、耐震工事に併せた外観リニューアル、80周年記念事業としての各校舎内装等のリニューアルにより、明るいキャンパスを実現している。防災（地震と火災）訓練を年2回実施し、防災に対する心構えや体制の整備を行っている。</p> <p>基準6について以下の【質問】があった。</p> <p>学校評価アンケートの中で「学習環境」が他の項目に比べて若干低くなっていますが、要因として何が考えられますか。</p> <p>【回答】</p> <p>ICT化を進めるほど、人的接触回数が減り周囲からの影響が減少するため劣悪さを感じるのだと推察されます。また換気等による外気の影響も考えられます。</p>
<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学びたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励むことを望むものである。一人でも多くのオープンキャンパス来校者に出願して頂けるよう、全教職員が魅力ある学校の情報発信に努め、自覚と責任をもって学生募集活動を行う必要がある。</p> <p>本校では入学希望者に学校を知ってもらうために、オープンキャンパスを実施、①学校紹介、②ミニ授業体験、③施設見学、④個別相談等を行っている。参加者のリピート率も高くそれが出願に繋がっている。その他にも学校見学、授業見学等の随時実施している。また入試の形態も多様化している。学院センター広報企画室が関東一円をはじめ甲信越や東北地方での高校訪問や会場ガイダンスなどの広報活動を展開している。高校生から社会人までの様々な入学希望者に対し全教職員が“おもてなし”の気持ちをもって対応できる体制を整えている。</p> <p>基準7について以下の【提案】があった。</p> <p>学校と学院が協力して取り組んでいて素晴らしいです。さらに今後もコミュニケーションを取り、協力していくことが重要である。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の立て直しの検討も必要となる。充実した教育目標に即した経営基盤の強化を達成するために、①定員の確保②退学率の低下に努めている。令和2年度の財務情報は、現在HPで公表中である。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。またISO14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。</p> <p>基準9について以下の【提案】があった。</p> <p>新型コロナウイルスの変異株の拡大、若干感染者の増加に対してクラスター発生防止のための対策を明確化した方がよいと思いました。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。本校は池尻町内会に所属しており、近隣住民を対象とした健康講話や試食会を行う「街づくり交流会」を毎年開催している。高齢化する地元住民にとって、学校や学生との交流は非常に感謝されている。公開講座としてスキルアップアカデミー講座、長寿健康ベターエイジング研究所主催の各種セミナー、講演会等を定期的実施している。引き続き「食と健康」の情報発信源として社会から高い評価が得られるよう、より一層の努力を継続していきたい。社会貢献活動を通じて地域の皆様の健康増進と健康寿命延伸の一翼を担っていきたい。</p> <p>基準10について以下の【意見】があった。</p> <p>災害時や非常時における給水については、地域への貢献として大変素晴らしい取り組みだと思いました。</p>